

[別表1-1]

### 第13回鹿児島県障害者スポーツ大会競技種目及び障害区分・出場区分

● 出場区分 身体障害者(1部 39歳以下)(2部 40歳以上) 知的障害者(少年13~19歳)(青年20~35歳)(壮年36歳以上) ※年齢は平成31年4月1日現在

1. 陸上競技

◎ 男女別・年齢区分別 ▲ 男女別・年齢区分なし

障害分類	区分番号	障害区分	競走					跳躍			投てき						
			※1 50m	100m	200m	400m	800m	1500m	スラローム	走高跳	立幅跳	走幅跳	砲丸投	ソフトボール投	ジャベリックスロー	ピンバグ投	
肢体不自由	1	上肢	1	◎	◎				※3◎			◎	◎	◎	◎	◎	
			2	◎	◎						▲	◎	◎				
			3	◎	◎							▲	◎	◎			
	1	下肢	4	◎	◎							◎	◎	◎	◎	◎	
			5	◎	◎							◎	◎	◎	◎	◎	
			6	◎	◎							◎		◎	◎	◎	
			7	◎								◎		◎	◎	◎	
			8											◎	◎	◎	
	2	体幹	9	◎	◎							◎	◎	◎	◎	◎	
			10	◎	◎					◎							◎
			11		※3	※3		※3	※3	◎							◎
			12		◎	◎		◎	◎	◎				◎	◎	◎	
			13		◎	◎		◎	◎					◎	◎	◎	
			14		※3	※3		※3	◎					◎	◎	◎	
			15		◎	◎		◎	◎					◎	◎	◎	
3	脳原性麻痺 (脳性麻痺, 脳血管疾患, 脳外傷等)	16	◎						◎							◎	
		17	◎						◎							◎	
		18	◎						◎					◎	◎		
		19	◎	◎	◎		◎	◎	◎				◎	◎	◎		
		20											◎	◎	◎		
		21	◎	◎	◎			◎			◎	◎	◎	◎	◎		
		22	◎	◎	◎			◎			◎	◎	◎	◎	◎		
4	23							◎							◎		
視覚障害 ※4		24	◎	◎	◎		◎	◎			◎	◎	◎	◎	◎		
		25	◎	◎	◎		◎	◎			▲	◎	◎	◎	◎		
聴覚・平衡機能障害, 音声・言語・そしゃく機能障害		26	◎	◎	◎		◎	◎			▲	◎	◎	◎	◎		
知的障害		27	◎	◎	◎	◎	◎	◎			▲	◎	◎		◎	◎	
内部障害		28	◎					◎				◎	◎		◎	◎	

※1 50m競走で使用する車いすは日常生活用とする。

※2 体幹とは頸部・胸部・腹部及び腰部(脊柱)のみに変形がある者(脊椎カリエス等による体幹の障害が該当する)。ただし、四肢の機能障害を伴う場合は体幹の機能障害があってもこの区分には該当しない。

※3 複数の障害区分にわたり1つの◎がついている場合は、一つの区分として競技をおこない、順位を決定する。

※4 視力は「矯正後の両眼視力」の和で判定する。視力の和を算出する際、光覚弁は視力0、指数弁は視力0.01とする。

※5 障害区分24は光を通さないアイマスクを装着する。

[別表1-2]

2. 水泳

◎男女別・年齢区分別 ○ 男女別・1部 ● 男女別・2部

障害分類	区分番号	障害区分	自由形		背泳ぎ		平泳ぎ		バタフライ			
			25m	50m	25m	50m	25m	50m	25m	50m		
肢体不自由	1	上肢	1	手部切断	◎	◎	●	○	●	○	●	○
			2	片前腕切断または、片上肢不完全	◎	◎	●	○	●	○	●	○
			3	片上腕切断または、片上肢完全	◎	◎	●	○	●	○	●	○
			4	両前腕切断または、両上肢不完全	◎	◎	●	○	●	○	●	○
		5	両上腕切断または、両上肢完全 片前腕および片上腕切断	◎	◎	●	○	●	○	●	○	
	下肢	6	片下腿切断または、片下肢不完全	◎	◎	●	○	●	○	●	○	
		7	片大腿切断または、片下肢完全	◎	◎	●	○	●	○	●	○	
		8	両下腿切断または、両下肢不完全	◎	◎	●	○	●	○	●	○	
		9	両大腿切断または、両下肢完全 片下腿および片大腿切断	◎	◎	●	○	●	○	◎		
	上下肢	10	片上肢切断および片下肢切断 片上肢不完全および片下肢不完全	◎	◎	●	○	●	○	◎		
		11	多肢切断または、片上肢完全および片下肢完全 両上肢不完全および両下肢不完全	◎	◎	●	○	●	○	◎		
	体幹	12	体幹	◎	◎	●	○	●	○	●	○	
2	脳原性麻痺以外の 車いす常用	13	第7頸髄まで残存	◎	◎	◎		◎				
		14	第8頸髄まで残存	◎	◎	●	○	●	○	●	○	
		15	下肢麻痺で座位バランスなし	◎	◎	●	○	●	○	●	○	
		16	下肢麻痺で座位バランスあり	◎	◎	●	○	●	○	●	○	
3	脳原性麻痺 (脳性麻痺、脳血管疾患、 脳外傷等)	17	四肢麻痺(車いす常用)または、 上肢に著しい不随意運動を伴う走不能	◎	◎	◎		◎				
		18	両下肢麻痺 上肢に軽度の不随意運動を伴う走不能	◎	◎	●	○	●	○	●	○	
		19	片側障害で片上肢機能全廃	◎	◎	●	○	●	○	◎		
		20	その他の片側障害で走不能	◎	◎	●	○	●	○	●	○	
		21	その他走可能	◎	◎	●	○	●	○	●	○	
4	22	浮具使用	◎	◎	◎		◎					
視覚障害 ※1	23	視力0から0.01まで ※2	◎	◎	●	○	●	○	●	○		
	24	その他の視覚障害	◎	◎	●	○	●	○	●	○		
聴覚・平衡機能障害、音声・言語・ そしゃく機能障害	25	聴覚障害	◎	◎	●	○	●	○	●	○		
知的障害	26	知的障害	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		

※1 視力は「矯正後の両眼視力」の和で判定する。視力の和を算出する際、光覚弁、手動弁は視力0、指数弁は視力0.01とする。

※2 障害区分23は光を通さないゴーグルを装着する。

で塗りつぶされている障害区分のスタートは、水中スタートをしなければならない。

[別表1-3]

3. アーチェリー (身体障害者のみ)

●男女別

障害の分類		区分番号	障害区分	リカーブ		コンパウンド	
				50m・30m	30m・30m	50m・30m	30m・30m
肢体不自由	脳原性麻痺以外で車いす常用	1	第8頸髄まで残存	●	●	●	●
		2	その他の車いす	●	●		
	切断・機能障害	3	上肢障害	●	●		
		4	下肢障害(いす, 車いす使用を含む)	●	●		
		5	体幹	●	●		
	脳原性麻痺(脳性麻痺, 脳血管疾患, 脳外傷等)		6	脳原性麻痺	●	●	●
聴覚・平衡機能障害, 音声・言語・そしゃく機能障害		7	聴覚障害	●	●		
内部障害		8	ぼうこう又は直腸機能障害	●	●		

※ 「第8頸髄まで残存」には、「第6頸髄まで残存」及び「第7頸髄まで残存」は出場できるものとする。

4. 卓球

◎男女別・年齢区分別

障害の分類		区分番号	障害区分	卓球	STT	
肢体不自由	1	上肢障害	1	片上肢障害	◎	
			2	両上肢障害	◎	
		下肢障害	3	片下腿切断または, 片下肢不完全	◎	
			4	片大腿切断または, 両下腿切断 片下肢完全または, 両下肢不完全	◎	
			5	片下腿および片大腿切断 両大腿切断または, 両下肢完全	◎	
		6	体幹	◎		
	2	脳原性麻痺以外で車いす常用, 使用	7	第8頸髄まで残存	◎	
			8	座位バランスなし	◎	
			9	その他の車いす	◎	
	3	脳原性麻痺(脳性麻痺, 脳血管疾患, 脳外傷等)	10	車いす使用	◎	
			11	杖または, 松葉杖使用	◎	
			12	上肢に不随意運動あり	◎	
			13	上肢に不随意運動なし	◎	
			14	片側障害	◎	
視覚障害		15	アイマスクあり		◎	
		16	アイマスクなし	◎		
聴覚・平衡機能障害, 音声・言語機能障害, そしゃく機能障害		17	聴覚障害	◎		
知的障害		18	知的障害	◎		
精神障害		19	精神障害	◎		

※ 「第8頸髄まで残存」には、「第6頸髄まで残存」及び「第7頸髄まで残存」は出場できるものとする。

※ 障害区分15, 16は視力・視野の程度に関わらず, アイマスクの有無で出場競技を分ける。

※ 障害区分15は光を通さないアイマスクを装着する。

5. フライングディスク

◎区分なし ●男女別

障害の分類	アキュラシー		ディスタンス	
	ディスリート5	ディスリート7	座位	立位
肢体不自由				
視覚障害				
聴覚障害	◎	◎	●	●
知的障害				
内部障害 (ぼうこう又は直腸機能障害)				

6. ボウリング

知的障害者で男女別, 年齢区分別に実施する。

## 障害区分の解説

### ■肢体不自由1

				障害区分名	解説	
切断または機能障害	上肢	切断	手部	片側及び両側の手部切断		
			片前腕	手関節の離断を含む片側の前腕の切断者		
			片上腕	肘関節の離断を含む片側の上腕の切断者		
			両前腕	両側手関節離断を含む両側の前腕の切断者		
			両上腕	両上腕の切断者		
			片前腕および片上腕	片前腕の切断及び片上腕の切断者		
		機能障害	片上肢不完全	片側の肩・肘・手関節のうち一または二関節に機能障害がある者		
			片上肢完全	片側の肩・肘・手関節のすべてに機能障害がある者		
			両上肢不完全	両側の肩・肘・手関節のうち一または二関節に機能障害がある者		
			両上肢完全	両側の肩・肘・手関節のすべてに機能障害がある者		
			下肢	切断	片下腿	片足部の切断を含む片下腿の切断者
					片大腿	膝関節の離断を含む片大腿の切断者
	両下腿	両側の下腿の切断者				
	機能障害	両大腿		両側の大腿の切断者		
		片下腿及び片大腿		片下腿の切断及び片大腿の切断者		
		片下肢不完全		片側の股・膝・足関節のうち一または二関節に機能障害がある者		
	上下肢	切断	片下肢完全	片側の股・膝・足関節のすべてに機能障害がある者		
			両下肢不完全	片側の股・膝・足関節のうち一または二関節に機能障害があり、両側にそれぞれある者		
		機能障害	両下肢完全	両側の股・膝・足関節のすべてに機能障害がある者		
			片上肢及び片下肢	片上肢の切断及び片下肢の切断者		
			多肢切断	三肢以上の切断者		
			片上肢不完全及び片下肢不完全	片上肢不完全及び片下肢不完全の者		
	片上肢完全及び片下肢完全	片上肢完全及び片下肢完全の者				
	体幹	体幹		頸部・胸部・腹部及び腰部(脊柱)のみに変形がある者(脊椎カリエス等による体幹の障害が該当する)【注1】		

【注1】 四肢の機能障害を伴う場合は体幹の機能障害があってもこの区分には該当しない。

### ■肢体不自由2

脊髄損傷等	陸上競技	脳原性麻痺以外で車いす常用または使用	第6頸髄まで残存	肩関節周囲の筋力はほぼ正常な四肢麻痺者(肘関節の屈曲と手関節の背屈は正常)
			第7頸髄まで残存	肩関節周囲と肘関節周囲の筋力がほぼ正常な四肢麻痺者(肩関節と肘関節、手関節の背屈と掌屈が正常だが、物がにぎれない)
			第8頸髄まで残存	肩関節周囲と肘関節周囲と手関節周囲の筋力はほぼ正常で指の曲げ伸ばしも可能な四肢麻痺者(把持能力はあるが、指を強く開いたり閉じたりできない)
			下肢麻痺で座位バランスなし	【注2】
			下肢麻痺で座位バランスあり	
	その他の車いす	脳原性麻痺や脊髄麻痺以外の車いす使用者(例:両下肢切断のため車いすを使用し競技する者)		
	水泳	脊髄損傷等(脊髄損傷や脊髄腫瘍等脊髄疾患、ポリオ、ギランバレーなどの疾患により対麻痺や四肢麻痺相当である場合はこの区分になる。切断や奇形、脳性麻痺による場合はそれぞれの該当区分の適用になる。)	第7頸髄まで残存	肩関節周囲と肘関節周囲の筋力がほぼ正常な四肢麻痺者(肩関節と肘関節、手関節の背屈と掌屈が正常だが、物がにぎれない)
			第8頸髄まで残存	肩関節周囲と肘関節周囲と手関節周囲の筋力はほぼ正常で指の曲げ伸ばしも可能な四肢麻痺者(把持能力はあるが、指を強く開いたり閉じたりできない)
			下肢麻痺で座位バランスなし	【注2】
			下肢麻痺で座位バランスあり	

【注2】 「座位バランス」の判定は、「へそ」の位置の知覚レベルの有無が一つの判断基準となり、背もたれのない座位の状態でも両手の支えなく座ることができる場合は「座位バランスあり」と判断する。

【注3】 (水泳)下肢の切断や欠損等による車いす使用者は、「座位バランスあり」に区分せず切断の区分を適用すること。

[別表2-2]

■肢体不自由3

脳原性麻痺（脳性麻痺、脳血管疾患、脳外傷等）	陸上競技	車いす	四肢麻痺で車いす使用	四肢に著しい可動域制限や協調運動障害がある者で両上肢駆動による車いす使用者
			けって移動	両上肢の障害が重度のため両下肢または片下肢で車いすを駆動させる者
			片上下肢で車いす使用	日常動作において片側の上肢と下肢で車いすを操作する者
			上肢で車いす使用	上肢による車いす使用者【注4】
	立位	その他走不能	杖や下肢装具の使用の有無に関わらず、走ることのできない者	
		上肢に不随意運動を伴う走可能	目的動作に障害のある上肢協調運動障害があるが、走ることが可能な者	
		その他走可能	【注5】	
	水泳	四肢麻痺(車いす常用)		四肢に著しい可動域制限や麻痺等の障害がある者で上肢駆動による車いす使用者
		上肢に著しい不随意運動を伴う走不能		意図的な動作に障害がある等の上肢の協調運動障害があり、走ることが不可能な者
		両下肢麻痺		両下肢に著しい可動域制限や麻痺等の障害がある者(車いすや杖、松葉杖などを使用していることが多い)
		上肢に軽度の不随意運動を伴う走不能		上肢の協調運動障害が軽度な者で、走ることが不可能な者
		片側障害で片上肢機能全廃		片側障害で患側上肢でスローク動作も走ること両方が不可能な者
		その他の片側障害で走不能		片側障害で患側上肢でもスローク動作が可能だが、走ることが不可能な者
	その他走可能		上肢の協調運動障害が軽度で走ることが可能な者や、片側障害で走可能な者等、上記区分に該当しない者	
	卓球	車いす	車いす使用	車いすを使用して競技をするすべての脳原性麻痺者
			杖または松葉杖使用	杖や松葉杖などを使用して競技をする者
		立位	上肢に不随意運動あり	意図的な動作に障害がある等の上肢の協調運動障害がある者
上肢に不随意運動なし			上肢の協調運動障害のない立位者	
片側障害			片側の上下肢に可動域制限や麻痺等の障害があるが、杖や松葉杖等を使用して競技をしない者	
その他	電動車いす常用(陸上)		四肢体幹機能障害により日常的に電動車いすを使用している者	
	浮具使用(水泳)		重度の四肢体幹障害のある者で、浮具を使用する者	

【注4】 ハンドリムを瞬時に把持したり、ハンドリムをプッシュする際に肘関節を完全に伸展させることができるものはこの区分に該当する。

【注5】 「上肢に不随意運動を伴う走可能」に該当しない走可能な者すべてがこの区分に該当する。

■視覚障害

視覚障害	視力0から0.01まで その他の視覚障害	【注6】
------	-------------------------	------

【注6】 視力は「矯正後の両眼視力」の和で判定する。視力の和を算出する際、光覚弁、手動弁は視力0、指数弁は視力0.01とする。

■聴覚・平衡機能障害、音声・言語機能障害、そしゃく機能障害

聴覚・平衡機能障害、 音声・言語機能障害、 そしゃく機能障害	聴覚障害	区分しない
--------------------------------------	------	-------

■知的障害

知的障害	知的障害	区分しない
------	------	-------

■内部障害

内部障害	ぼうこう又は直腸機能障害	脊髓損傷等で合併したぼうこう又は直腸機能障害者は含まない
------	--------------	------------------------------

■精神障害

精神障害	精神障害	区分しない
------	------	-------

## 障 害 区 分

1. この障害区分は、全国障害者スポーツ大会のために制定されたものを参考にしており、肢体不自由者の場合、主として身体障害者手帳を参考にしながら、現状の障害に合った区分を選択するようにしている。したがって、運動機能の障害程度から区分される国際組織の障害区分とは大きく異なる。
2. 障害区分は、競技により異なっているが、身体障害者手帳との関係から、身体の形態的・機能的な視野に立った用語を多く使用している。
3. 障害が重複している場合には、選択した1つの障害区分の競技に参加しなければならない。
4. 肢体不自由者の障害区分
  - (1) 肢体不自由の7級が重複して6級に認定されている場合は、片側の障害として区分する。(両下肢が7級の切断の場合は、片下腿切断に区分する)。
  - (2) 多肢切断や両上肢障害など、複数の部位の切断や機能障害がある場合は、3肢以上(多肢)や両上肢がそれぞれ6級以上の認定を受けていなければならない(左上肢が7級で右上肢が6級などの場合は、片上肢障害として区分する)。
  - (3) 指および手のひらの切断は手部切断として、足部の切断は下腿切断として扱う。
  - (4) 片側の手部切断も、両側の手部切断も「手部切断」として区分する。
  - (5) 関節離断は、上位の部位の切断として扱う(肘関節離断の場合は、上腕切断となる)。
  - (6) 完全とは、上肢または下肢の3大関節(肩・肘・手関節または、股・膝・足関節)の全てに機能障害のあるものをいう。下肢の場合は長下肢装具なしでは体重を支えきれないものをいう。
  - (7) サリドマイドや骨形成不全などにより、前腕は正常でも上腕に障害があるような場合には、競技によっては、最も上位の障害部位(上腕)の切断として扱っても、機能障害として扱ってもよい。
  - (8) 「車いす常用」とは、日常生活で常に車いすを使用していることをいう。また、「車いす使用」とは、大会の競技場面のみに車いすを使用していることをいう。
  - (9) 切断または機能障害のある競技者が競技で車いすを使用する場合は、「脳原性麻痺以外で車いす常用または使用」の「その他の車いす」の障害区分とする。
  - (10) 脊髄損傷や脳原性麻痺以外で上下肢に障害のある車いす常用(筋ジストロフィー症など)の区分は、残存機能や座位バランスなどに留意しながら、脊髄損傷の機能レベルの区分に応じて行う。
  - (11) 脳原性麻痺とは、脳性麻痺、脳血管疾患や脳外傷等による脳に起因して生じる健康状態の総称をいう。ただし、脊髄小脳変性症の場合は、実際の障害状況に応じて他の区分となることもある。
5. 視覚障害の視力は、「矯正後の両眼視力」の和で判定する。視力の和を算出する際、光覚弁、手動弁は視力0、指数弁は視力0.01とする。また、矯正後の両眼視力の和が0.02以上の場合には、視野障害の有無に関わらず、その他の視覚障害に区分される。
6. 内部障害は、ぼうこう又は直腸機能障害のみを対象とする。